



# 日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

通算 第52号 2018.10.

## 日高山脈ネイチャーセミナー2018「日高のジオサイトへ行こう」を開催しました

**日高には、地質の見所もたくさん！その一つ一つを訪れます！**

9月29日に、岩石地質講座「日高のジオサイトへ行こう」を開催しました。ジオサイトとは、特徴あるジオ〔地質（地層、岩石、鉱物、化石など）や地形〕が見られる場所や、ジオと人とのかかわりを示す場所、ジオを案内・展示・解説などすることができる拠点、例えば博物館などの施設のことです。

日高には、当博物館を含め、そのジオサイトがたくさんありますが、そのうちの1つ、サンゴの沢・なみだの滝付近の地質を観察しました。サンゴの沢は、日高市街地からも近く、レクリエーション等でよく利用されている場所ではありますが、その地質の多様さや複雑さについては、地質の専門家や研究者も注目している、すばらしい場所でもあります。

今回の主な見所は、およそ1600万年前の二ニウ層と1億年ほど前の蝦夷層群が隣り合っている部分です。地層は時代が隣り合うもの同士が積み重なっていくものですが、この地点では、およそ8000万年の「地層の空白の時間」を観察できる場所です。このような、地層が不連続に重なっていることを「不整合」といいます。これらを研究している、川村信人氏（前・北海道大学准教授）をお招きし、さまざまな角度からそれぞれの地層を観察しました。

その他にも、サンゴの沢に現れている、いくつかのジオサイト（主に地質の露頭）を見学し、参加者の皆さんの様子からは、日高の地質への興味が高まったようでした。

なお、11月4日開催予定の、日高山脈ネイチャーセミナー2018「岩石を顕微鏡で見よう」は、今回訪れたサンゴの沢にある、1億年ほど前の凝灰岩（蝦夷層群）を岩石薄片にさせていただき、顕微鏡で観察しようと考えています。

来年度も、今回同様に、日高のジオサイトを訪問できる事業を開催したいと考えていますので、皆様のご参加をお待ちしております。



左の小石の多い層（二ニウ層）と右の砂のような層（蝦夷層群）の、この間（ハンマーが置いてあるところ）が、およそ8000万年の空隙です。8000万年はいずこへ…？